

フライアッシュコンクリートの材料・配合・施工についての特記事項

(1) JIS 認証について

フライアッシュコンクリートは、JIS A 5308 に適合するものを用いなければならない。

(2) 材料

ア セメント

フライアッシュコンクリートに使用するセメントは、以下のいずれかのものを使用する。

(ア) 混和材としてフライアッシュを使用する場合

共通仕様書第 1 編 2-6-2 セメントに規定する普通ポルトランドセメント (JIS R 5210)

(イ) セメントとしてフライアッシュセメントを使用する場合

共通仕様書第 1 編 2-6-2 セメントに規定する B 種フライアッシュセメント (JIS R 5213、
フライアッシュ分量 15%以上)

イ フライアッシュ

フライアッシュは、地域的活用による環境負荷低減の観点及び委員会による実機試験で使用されていることから北陸電力(株)七尾大田火力発電所または敦賀火力発電所から産出されるものを使用することとし、共通仕様書第 1 編 2-6-3 混和材料に規定するフライアッシュ (JIS A 6201) のうち、品質種類はフライアッシュ II 種とする。

ウ 骨材

細骨材および粗骨材は、JIS A 5308 「レディミクストコンクリート」 附属書 A に適合するものとする。

(3) コンクリートの配合

「農林水産部所管工事における生コンクリートの取扱いの一部改正について(通知) (令和元年 6 月 6 日付農整第 147 号)」 の別紙「1. 生コンクリートの標準配合について」 で定める用途別の配合を準用する。(セメントの種類「BB」を「FB」と読み替える。)

また、混和材としてフライアッシュを使用する場合は、「水セメント比」を「水結合材比」と読み替えるものとする。

(4) 運搬及び打込み

ア コンクリートは、練り混ぜたのち速やかに運搬し、直ちに打込み、十分に締め固めなければならない。練り混ぜてから打ち終わるまでの時間は、原則として、外気温が 25℃を超える時で 1.5 時間、25℃以下の時で、2 時間を超えないものとし、かつ、コンクリートの運搬時間は、1.5 時間以内としなければならない。

イ 打込み時のコンクリート温度は、原則 10℃以上でなければならないが、現地の状況等により、5～10℃となる場合は、コンクリート打込み後、低温、高温、急激な温度変化、乾燥等の有害な作用の影響を受けないよう十分に養生して施工する。

(5) 養生

ア 養生期間

フライアッシュコンクリートの湿潤養生期間は、下表のとおりとする。

日平均気温	フライアッシュコンクリート
15℃以上	7日
10℃以上	9日
5℃以上	12日

イ 養生温度

養生期間中は、コンクリートの表面温度を 10℃以上に保つことを原則とする。